

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【公表番号】特表2012-525194(P2012-525194A)

【公表日】平成24年10月22日(2012.10.22)

【年通号数】公開・登録公報2012-043

【出願番号】特願2012-507878(P2012-507878)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/00 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成25年4月22日(2013.4.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

G I 管の組織を通過して、組織に定着することが可能であるように適応された端部を有するテザーと、前記テザーの長さに沿って付着される少なくとも 1 つの装置本体とを備えた、被験者の胃腸障害を治療するための装置であって、前記少なくとも 1 つの装置本体が、通常開状態の弾性的に圧縮可能な構造であり、

(i) 前記通常開状態で前記 G I 管の管腔を少なくとも部分的に閉塞すること、および

(i i) 前記テザーを前記組織から切り離した後、前記 G I 管を通過すること

が可能である、

装置。

【請求項 2】

前記少なくとも 1 つの装置本体が、前記 G I 管の洞、幽門および／または十二指腸領域を少なくとも部分的に遮断するように構成され、かつさらに前記端部が胃の組織を通過し、前記テザーの長さが、前記少なくとも 1 つの装置本体を前記幽門から 7 c m 以内に配置するように選択される、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記装置本体が開いた円錐体、パラシュート、または傘として形作られる、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

前記装置本体は 2.5 m m 以下の最大直径を有し、それによって前記 G I 管を通過することができる、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

前記テザーの長さに沿って付着される複数の装置本体を備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】

前記テザーの前記端部が前記組織に定着された場合に、前記複数の装置本体のうち第 1 の装置本体は十二指腸に存在し、前記複数の装置本体のうち第 2 の装置本体は洞内に存在する、請求項 5 に記載の装置。

【請求項 7】

前記少なくとも 1 つの装置本体が 1 立方センチメートルの最大排水容積を有する、請求

項 1 に記載の装置。

【請求項 8】

前記テザーが前記組織に定着された場合に、前記少なくとも 1 つの装置本体が胃と十二指腸との間を移動することができる、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 9】

前記少なくとも 1 つの装置本体が1 ニュートン未満の力によりその最小包含容積まで圧潰可能に構成される、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 10】

前記装置が前記組織から切り離された後、前記 G I 管内に存在する前記装置の全部分が前記 G I 管を通過する、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 11】

被験者の胃腸障害を治療するためのシステムであって、
(a) 組織に定着することが可能である端部を有するテザーの長さに沿って付着された少なくとも 1 つの装置本体を含む装置と、
(b) 送達装置と、
を備え、前記送達装置は、
(i) 胃腸の壁の組織を通じて前記テザーの前記端部を送達する組織貫通要素と、
(i i) 前記テザーの前記端部が組織の標認点から所定の距離を置いて配置されるように、前記組織を通じて前記テザーの前端部を送達するための組織の部位を決定するための距離マーカと
を含む、
システム。

【請求項 12】

前記送達装置は、前記組織貫通要素の移動軸に対し垂直な方向に前記組織を吸込むための真空チャンバを含む、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

前記組織貫通要素は、その内腔に配置されたプッシュロッドを含み、さらに前記組織貫通要素は、前記組織貫通要素および前記プッシュロッドを 1 回のオペレータ動作で順次変位させるように構成された前記ハンドルを含む、請求項 11 に記載の送達装置。